

2007年度大学入試センター試験 解説〈地理B〉

第1問 世界の自然環境と自然災害に関する問題（配点16）

世界の大地形や気候などの自然環境，および日本の自然災害などについての出題である。とくに自然環境に関する設問は，過去に類題の多い基本的な内容であった。自然災害についての出題例はそれほど多くないが，盲点となりやすいので注意したいテーマである。

問1 新期造山帯についての説明文の正誤判定

正解は④。地質年代は先カンブリア代から始まり，古生代・中生代・新生代と続く。これらの年代と大地形の形成時期との関係は下の通り。

●地質年代と大地形の区分との対応

先カンブリア代	安定陸塊	楕状地
		卓状地
古生代	古期造山帯	
中生代	新期造山帯	
新生代	(中生代後期から現在まで)	

新期造山帯は現在まで造山活動が続き，高く険しい大山脈や弧状列島を形作っている。

① 誤り。楕状地は安定陸塊の一部であり，原始の海に多く含まれていた鉄イオンの酸化・沈殿により鉄鉱石資源が豊富である。

なお石炭資源が豊富なのは古期造山帯。古生代のシダ植物などの大森林から石炭ができたからである。石油は，褶曲や断層など，石油が溜まりやすい地質構造を持った新期造山帯の周辺からの産出が多い。

② 誤り。卓状地も安定陸塊の一部。また，卓状地とは先カンブリア代の岩石の上に，ほぼ水平な地層が積み重なったもので，「広大な低地の中に基盤岩が隆起した」地形ではない。

③ 誤り。構造平野は，安定陸塊の卓状地などが長い年月に侵食を受けた地形で，水平な地層そのものが平坦面を作っている。ケスタ地形などは構造平野に見られる。

問2 地震の発生原因と地図上の地域との組み合わせ

正解は⑤。

ア 海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込むところでは地震が多い。その典型は日本列島の太平洋側で、太平洋プレートやフィリピン海プレートがユーラシアプレートとの間で狭まる境界を形成し、日本を地震国・火山国としている。

同様に、フィリピン諸島の東側でもフィリピン海プレートがユーラシアプレートの下に沈み込み、このプレート境界で地震が頻発している。よって、地図のCがこれに該当する。

イ ずれる境界としては、横ずれ断層であるアメリカ西海岸カリフォルニア州のサンアンドレアス断層が知られる。周辺では地震が多く、サンフランシスコやロサンゼルスなどの大都市に被害をもたらしている。よって、地図のAがこれに該当する。

ウ 地図中で残ったBのトルコ周辺が該当する。トルコは新期造山帯であるアルプス=ヒマラヤ造山帯の一部であり、アナトリア高原の北部には横ずれ型の活断層が走っている。トルコはたびたび地震被害に見舞われている。特に1999年のトルコ大地震では1万7000名の死者を出した。

問3 北アメリカ大陸の河川流量の季節変化と地図中の河川の組み合わせ

正解は②。河川の流量変化については、1994年追試第2問、1996年追試第2問、1999年追試第1問、2003年本試第1問、2004年追試第1問に出題がある頻出テーマであった。

カ このグラフでは冬季の流量が著しく少なく、4～6月に急激に流量が増加している。これは冬季の低温による河川の凍結と、遅い春の気温上昇による解氷・雪解けを示している。よって、高緯度の主に亜寒帯（冷帯）気候の流域を持つL（ユーコン川）が該当する。

キ このグラフは3～4月にカと同様に雪解け水とみられる流量のピークはあるが、年間の流量は安定している。よって、Lより低緯度側にありやや年平均気温の高い亜寒帯（冷帯）地域から温帯地域へと流れるN（ミシシッピ川）が該当する。

ク このグラフは年間を通して流量が少ない。これは流域の降水量が少ないことを示す。よって、乾燥帯のコロラド高原を流れるM（コロラド川）が該当する。

問4 アジア（東経75度付近）の降水量の季節変化と地図中の地点の組み合わせ

正解は⑥。

サ 年間を通して降水量が多く、年降水量が2000mm以上あることが読み取れる。よって、地図の3地点の中では熱帯雨林気候のR（コロンボ）が該当する。グラフの2つのピークのうち、5月は南西モンスーン、10月は北東モンスーンの影響を示している。

シ 雨季と乾季が明瞭な熱帯サバナ気候の特徴が表れたグラフである。よってQ（ムンバ

イ) が該当する。夏季は高温湿潤な南西モンスーンが高原の斜面で急上昇し多雨をもたらすが、冬季の北東モンスーンはヒマラヤ山脈を越えて陸上を吹き乾燥している。
 ス 年間を通して降水量が少なく、季節変化も顕著ではない。このため、内陸に位置し隔海度の高いP (アルマトィ) が該当する。中央アジア (カザフスタン) の乾燥帯に位置する。

問5 日本の自然災害とその原因についての説明文の正誤判定

正解は③。停滞前線に限らず、梅雨時の前線などに台風や温帯低気圧が暖湿な気流をもたらすことで大気が不安定となり、積乱雲が発生して短時間に局地的な大雨が降ることがある。これが集中豪雨であり、地すべり・土石流・がけ崩れなどの土砂災害や、洪水などの水害が発生しやすい。

① 誤り。フォッサマグナとは、大地溝帯とも呼ばれ、日本列島を東北日本と西南日本に分ける断層帯である。中部地方を南北に縦断している。この肢文のうち、この語を除いた他の部分は正しい。

② 誤り。海溝も火山帯・弧状列島も、プレート境界に沿って形成されるので当然平行しており、「直交する向き」ではない。

④ 誤り。冷害は、春～初夏の稲などの農作物生育期に低温が続く自然災害である。よって冬には発生しない。東北地方の太平洋側では、寒流の千島海流 (親潮) の影響で、初夏に冷涼湿潤な北東の局地風=やませが吹き、稲作に被害をもたらす。

問6 自然災害に関するハザードマップについての説明文の正誤判定

正解は①。まず、ハザードマップについて整理しておこう。

●ハザードマップとは

自然災害による被害範囲を予測して地図化したもの。予測される災害の発生地点、被害の拡大範囲および被害程度、さらには避難経路、避難場所などの情報が地図上に示される。作成の目的は、災害発生時に住民が迅速に避難し、二次災害を避けることで、被害の低減を図ることにある。

地震災害予測地図は、地震発生時の振動・液状化に伴う建物崩壊や地すべり、出火・延焼などの二次災害といったものを予測して地図化したものである。地震時には地盤の変動や地下水面の変化も見られるが、その変化は「低下」には限らない。これらのメカニズムは未解明である上、人命損傷などの直接的被害には繋がりにくい。

② 正しい。溶岩流は火山から噴出したマグマが固まる前に流れるもの、火砕流は火山から噴出した高温のガスが火山灰と混ざり合って高速で流れるものである。

③ 正しい。わが国では毎年のように水害が発生しており、また氾濫時の浸水区域は想定

が容易であるため、洪水ハザードマップは重要性が高い。上で述べたようなハザードマップの目的がわかれば、本肢はあきらかに正しい。

④ 正しい。土石流とは、土砂や岩石が大雨や急激な融雪などで崩れ、水と混じって高速で流れ落ちるものである。山津波などとも呼ばれる。大雨の他に、地震や火山活動が原因となることもある。

第2問 世界の工業に関する問題（配点16）

世界および日本の工業・工業地域に関する出題である。近年のセンター試験では珍しく、具体的に個別の工業地域・工業都市に関する設問がみられる。ただし、過去問の焼き直しである問題も含まれており、レベル的には標準的といえよう。

問1 工業製品名と生産国の分布図の組み合わせ

正解は③。

塩：塩についての統計を目にする機会は少ないため判断は難しいが、他の2品目から決めていくことで消去法的にイを選ぶことになる。生産上位国はアメリカ合衆国・中国である。

塩については日常的イメージから（1）海から取る、（2）食品として消費、といった先入観を持ちやすいが、（1）海から取れる塩は全体の4分の1程度。他は岩塩・地下かん水・塩湖などから取る。（2）日本では消費量の8割がソーダ工業（化学工業の一種）に用いられる。また、日本は塩の自給率が15%程度と極端に低く、多くをメキシコ・オーストラリアから輸入している。

パルプ：パルプ工業は木材（以前は針葉樹のみ、現在は広葉樹も利用）が原料で、原木と軟水の豊富な場所に立地することが多い（原料指向型）。このことから、針葉樹林の広がるカナダ・ロシア・北欧、広葉樹の熱帯樹林が分布するインドネシア・ブラジルでの生産が多いアが該当する。北欧のフィンランド（生産量4位、2004年）・スウェーデン（同5位）が判断の決め手になる。

プラスチック：石油を原料とした化学工業製品である。そのためアメリカ合衆国以下、ドイツ・中国・日本・韓国などの北半球の工業国が生産量上位国となる。（南半球には石油生産上位国が存在せず、工業国も少ない。）よって、ウの図が該当する。

問2 ヨーロッパの工業地域の地図上の位置と特徴の組み合わせ

正解は①。

A イギリスのミッドランド地方を示している。古期造山帯の豊富な石炭や、鉄鉱石の産出を背景に、バーミンガムを中心に鉄鋼業などが盛んである。この工業地帯は、産業革命期からの伝統を持つが、近年は資源の枯渇から、鉄鋼業の中心的地位を臨海部の製鉄都市に奪われている。以上から、カの説明文が該当する。

B ドイツのルール地方を示している。ルール炭田の石炭とライン川の水運の利用によって、エッセン・ドルトムントを中心に鉄鋼業が盛んで、EU最大規模の工業地域を形成している。近年はやはり石炭資源の枯渇や石油など輸入資源のウエイト増大、また産業構造の高度化によりその地位は低下し、エレクトロニクスなどの先端技術産業への転換を余儀なくされている。よって、キの説明文が該当する。

C フランスのトゥールーズ付近を示している。航空機産業では、EUの結合を背景に各国の共同出資による航空機メーカー（エアバス社）が国際分業体制を確立している。各国で作られた部品が、ここトゥールーズの最終組立工場に集められている。従ってクの説明文に該当する。

問3 アメリカ合衆国における工業地域についての説明文の正誤判定

正解は③である。このように具体的な工業都市名の知識を踏まえた出題は近年減少しているが、ここで問われている知識は基本レベルと言えよう。

ピッツバーグは、アメリカ合衆国を代表する製鉄都市である。五大湖の水運を利用して輸送されるメサビの鉄鉱石と、アパラチア山脈の石炭の結合によるものである。

① 正しい。サンノゼは西海岸のサンフランシスコ郊外に位置しており、周辺が半導体産業の集積地となっている。この地がシリコンバレーの別名で呼ばれるようになると、これに倣って同様の先端産業集積地が「シリコン××」などと名づけられるようになった。

●アメリカ合衆国の先端産業集積地

地域の名称	州	主な都市
シリコンバレー	カリフォルニア	サンノゼ
シリコンデザート	アリゾナ	フェニックス
シリコンプレーン	テキサス	ヒューストン・ダラス
エレクトロニクスベルト	フロリダ	オーランド
リサーチトライアングルパーク	ノースカロライナ	ダラム・ローリー
エレクトロニクスハイウェー	マサチューセッツ	ボストン

シリコンフォレスト	ワシントン	シアトル・ポートランド
シリコンマウンテン	コロラド	デンヴァー
シリコンアレー	ニューヨーク	ニューヨーク

- ② 正しい。シアトルは西海岸北部に位置し、日本人大リーグの活躍するプロ野球チームの本拠地としても知られる都市である。上表のシリコンフォレストにあたる（フォレスト=森）。
- ④ 正しい。ヒューストンの位置するテキサス州は、メキシコ湾岸油田と内陸油田を有し、資源に恵まれている。ヒューストンでは、この資源を利用した**石油化学工業**のほかに、航空宇宙産業がさかんなことでも知られる。

問4 中国の工業化についての説明文の正誤判定

正解は④。1980年代以降の改革開放路線により、中国の東部沿岸地域では急速な経済成長が進み、人口も急増した。急激な成長は、過密による都市問題や、電力などのエネルギー不足、用地・用水不足を生じるほどである。

他方、西部内陸地域では（1）農村経済の疲弊（2）国営企業の生産低下による失業の増大（3）人口の流出（4）過度な農耕による土壌流出・砂漠化などの環境破壊 といった問題を抱え、東部との経済格差が広がっている。

そこで政府は、この地域間格差を是正するため、2000年から西部大開発を推進している。

●西部大開発

- （1）資源の開発 … 内陸の資源を開発し、沿岸部に輸送するほか、内陸部の工業化に利用。とくに天然ガスについてはタリム盆地からシャンハイまでパイプラインを建設。
- （2）交通・通信網の整備 … チベットとチンハイ省を結ぶ鉄道の建設などを進める。
- （3）サンシャ（三峡）ダム … 長江に世界最大級のダムを建設。水力発電を行い、沿岸部の電力不足解消を図る。
- （4）生態系の回復・保全 … いったん開拓した耕地を森林に戻し、砂漠化を防ぐ。

中国全体で見ても、沿岸の一部を除き先端技術産業は未発達であり、外国資本との協力が欠かせない段階である。したがって、現時点では内陸部に自国資本による先端技術産業の集積はみられない。

- ①正しい。文化大革命とは、1966年から毛沢東を中心に進められた熱狂的な政治運動である。権力・思想闘争を通し、伝統文化の破壊や知識人の弾圧などが行われ、経済の混乱は

約10年間続いた。この時期には国防上の理由から主要産業を内陸に移転させている。

②正しい。1980年以降、華南の沿岸部に輸出加工区の一つである**経済特区**が設けられた。これは外国企業に開放された土地で、優遇税制などにより先進国企業の誘致を進めた。

③正しい。1980年代後半には、人民公社の解体と生産責任制の導入で失業した農村労働力を利用するため、(日本で言えば)町や村単位、もしくは個人が経営する**郷鎮企業**が認められるようになった。

問5 日本における製造業の業種別分布図と業種名の組み合わせ

正解は④。一見すると、図の違いがはっきりせず判断が難しいように思えるが、いくつかのポイントとなる都道府県に注目することで解決は容易となる。冷静に対応したい出題である。このタイプの分布図の判定は頻出であるから練習しておきたい。

サ **長野**の出荷額割合が高いこと、他の2図に比べ首都圏に集中していることから精密機械とわかる。長野県の諏訪湖周辺はかつて製糸業が盛んであったが、第二次世界大戦後は化学繊維の普及などで絹織物需要が低下し製糸業は衰退した。代わりに、既存の産業基盤を利用して時計・カメラなどの精密機械工業が発達した。内陸の乾燥した空気と豊富な水資源が精密機械の生産に適していたからである。その後も、電子・電気機械の組み立てなどに主力産業をシフトしつつ、岡谷・諏訪・茅野といった都市に工場が集積している。

一方、高度な技術を要する産業であり、製品が高価であるため、知識・情報が集まるうえ大市場を持つ首都圏周辺にも一定の集積が見られる。

シ 太平洋ベルトに集中することから鉄鋼業と分かる。自動車などの機械工業が盛んな中京工業地帯や京浜工業地帯での需要が大きいため、**愛知・千葉・神奈川**などの割合が特に高い。

ス 食料品は日常的に消費されるため、人口の多い都道府県にその人口に比例する形で広く分布する。また、原料となる農畜産物との結びつきを考えると、**北海道・鹿児島**への分布が決め手となる。

問6 日本の対外直接投資の相手国・地域の推移と国・地域名との組み合わせ

正解は③。本問については1999年度本試第3問にまったく同テーマ・同形式の出題がある。過去問研究の重要性を実感させる出題であった。

日本企業によるアジアへの直接投資は、主に現地の安価な労働力を利用するための製造業の進出である。とくに1985年以降は円高の進行によってコスト削減を求める企業の進出が増加した。もちろんコストの安さだけではなく、政情の安定・教育の普及・誘致政策の有無などの要因も見逃せないが、基本的には人件費を中心とするコストの問題である。

はじめは、比較的経済の発達していた（＝工業立地を受け入れる基盤のあった）シンガポールやホンコン・台湾・韓国などアジアNIEs（グラフの子）への進出が中心だったが、外国企業の集中によりコストが割高になると、マレーシアやタイをはじめとするASEAN諸国（タ）、さらには計画経済から市場経済への転換を進めていた中国（ツ）やベトナムへと進出先をシフトしていった。

第3問 世界の都市の発展や都市問題に関する問題（配点16）

都市に関する出題は、2005・2006年こそ出題例が少なかったものの、過去のセンター地理では頻出のテーマである。前半の正誤判定にやや迷う選択肢があり、後半の組み合わせ問題では図表の読み取りにおいて高い判断力を必要とするなど、全体としてやや難しい大問であった。いわゆる地理的思考力の有無を問う良問であったともいえよう。

問1 世界各地の都市の機能や形態についての説明文の正誤判定

正解は③である。産業革命を契機に近代工業が発達したことが理解できていれば、判定はそう難しくはない。18世紀後半に産業革命が始まると、それまでの政治や商業の中心としての都市に加えて、工業製品の生産を行う都市、すなわち工業都市が成立した。

① 誤り。唐の長安（などの古代中国の都）は、それを模倣した日本の平城京・平安京を見てもわかるように、**直交路型（碁盤目状型）の道路網**を持っている。放射環状路をもつ大都市としてはパリやモスクワが知られる。

② 誤り。日本の城下町では、武士と町人で居住地域は区別され、さらに町人もその職能によって居住地域は限定されていた。また、城はもともと軍事施設であるから、城下町では**防御目的でかぎ型路やT字路**などが設けられ、敵の侵入を防いだ。しかし、都市全体が城壁で覆われることはない。

④ 誤り。衛星都市とは、**中心都市の周辺にあって中心都市の機能の一部を分担するもの**であるから、都心に隣接するものではない。

問2 都市の人口規模の分布を示す統計と国名の組み合わせ

正解は⑥である。

アメリカ合衆国：人口800万人を数えるニューヨークをはじめ、ロサンゼルス（370万人）、シカゴ（290万人）など、**人口百万人以上の都市が9つあり**、広大な国土の各地に分散している。よってウが該当する。

タイ：発展途上国の多くでは、投資や開発が中心都市（多くの場合首都）に集中するため、周辺の農村人口を吸収し、2位以下と大きく離れた人口最大都市が成立する。これを首位都市（プライメートシティ）という。タイでは首都バンコクがこれにあたり、グラフではイが該当する。

ドイツ：ドイツは連邦国家であり、先進国の中でも一極集中型の日本・イギリス・フランスなどと異なり、中小都市が全国に分布する分散型の国土構造を持つ国である。よってアが該当する。

問3 先進国の都市の状況についての説明文の正誤判定

正解は②である。パリの郊外では、副都心ラ＝デファンスなどの再開発が「一掃型（クリアランス型）」で行われている。これは古い建物を取り払い、跡地にオフィスビルなどの新しい都市機能を建設するものである。

一方で、歴史的建築物の多い都心部では「修復・保全型」の再開発が中心である。これは都市の景観保全を前提に、貴重な建造物の修復・保全を一戸単位で行っていくものである。よって高層化にはつながらない。このような形態の再開発は都心の商業地区マレなどで見られる。

① 正しい。アメリカ合衆国では、犯罪・環境悪化・交通渋滞を抱える大都市から、居住環境の優れた中小都市やその郊外へ移転する人々や企業が増えている。自動車交通の便のよい高速道路のインターチェンジ付近には、郊外に位置しながらオフィスビルや商業施設が集積する地区（エッジシティという）が成長著しい。

③ 正しい。カナダは多文化主義の国であり、難民や移民の受け入れにも寛容な政策をとっている。特にバンクーバーはカナダ太平洋岸の都市であり、アジア系移民の割合が高い。

④ 正しい。ロンドン中心部の東に位置するロンドン港は、かつてはテムズ川の河港として栄えた。ドック（船舶建造施設）などの港湾施設の集中によりドックランズと呼ばれた。しかし、大型船が入港できず第二次世界大戦後は荒廃した工業地域になっていた。1981年からの一掃型の再開発で、高層ビルの並ぶ地域に再生した。

問4 発展途上国の都市問題についての説明文の正誤判定

正解は④である。空洞化した都心部はインナーシティと呼ばれ、先進工業国の大都市で見られる現象である。また、先進国の都心空洞化では、都心部の住環境の悪化により富裕層が郊外に移転、税収の低下がさらなる公共サービスの停滞につながり、取り残された貧困層・高齢者・移民などがスラム化した老朽建築物に居住する。なお、途上国では、先述の首位都市の説明で分かるように、多くの人口や事業所が移転しうるような地方都市は存在しない。

- ① 正しい。例えば、高原上のかつての湖底に位置するメキシコシティでは、酸素不足による不完全燃焼や排気ガスの滞留による大気汚染が深刻である。
- ② 正しい。このような不法占拠者をスクォッターといい、不良住宅街をスラムという。
- ③ 正しい。街頭でその日暮らしをしているストリートチルドレンも、このような非正規部門（インフォーマルセクター）での労働を強いられている。

問5 人口構成・産業に関する統計表と都市名の組み合わせ

正解は③である。この問題は3都市に関する知識の有無で難易度が大きく異なってくる。

鹿児島市 … 鹿児島県の県庁所在地。南九州地方の中心的な機能を果たしている。

八王子市 … 東京都南西部に位置する衛星都市。住宅都市・学園都市などの機能を持つ。

東大阪市 … 大阪府東部に位置する工業都市。繊維その他の中小企業が集中する。

一方、各指標の持つ意味を整理すると、下のようになる。

人口増加率 … 東京周辺では高位、地方で低位である。

20～24歳人口 … 大学生や若年労働者を意味し、**学園都市・大工場の周辺**などで高くなる。

卸売業年間商品販売額 … 小売業と比較して商圏が広い。そのため、大都市の周辺都市は大都市の商圏に含まれてしまい、卸売業は盛んではない。逆に**地方の中心都市**は、周辺の広域を商圏とするので卸売業が集積する。

製造業従業者数 … 当然ながら、工業の発達に相関するが、とくに**労働集約的な組み立て工業や繊維業**では、生産額に対する労働費の比率が高まり、従業者も多い。

これらの前提から、以下のように判断する。

カ 東京のベッドタウンとして人口増加率が高いうえ、**学園都市**で若年人口が多いが、東京の卸売商圏に含まれているため卸売業が未発達である八王子市。

キ **地方中心都市**として卸売業は盛んだが、工業地域の立地が遅れているため製造業従業者の少ない鹿児島市。

ク **阪神工業地帯の一部**として中小工場の集積する工業都市である一方、若年層を中心に人口の転出が進む東大阪市。

問6 札幌市の人口密度・地価・老年人口率の各指標と階級区分図の組み合わせ

正解は⑥。「老年人口率」の判定について迷うと、混乱しそうな設問である。余りあれこれ悩まないで、シンプルな根拠を挙げて冷静に判断したい。

サ 北東部の郊外農村地帯で数値が高くなっていることから、人口密度と地価が否定され、これが老年人口率と分かる。都心部の数値の高さでやや迷うが、後述のように人口の希薄な地域であり、定住人口は一部の高齢な富裕層などに限定される。

シ 都心のCBD（中心業務地区）にピークがあり、周辺の数値が低いことから地価と判断できる。鉄道路線に沿って数値の高い地域が伸びていることも判断の根拠となりうる。

ス おおよそ市街地で高く、周辺の山地や耕地で低いことから人口密度である。都心部のCBDに数値の低い「空洞」があることから地価は否定される。CBDにはオフィスビル等が集積し、昼間人口は多いが、夜間人口＝定住人口は少ない。

第4問 アフリカの地誌に関する問題（配点17）

アフリカの地誌を正面から問う出題は1997年以来10年ぶりである。やはりセンター試験の準備においては、各分野・各地域を満遍なく学習することが大切である。なお、問1～3のように他の単元での学習内容から考察可能な問題はともかく、後半に見られたやや細かいアフリカ地誌の知識を問う正誤判定の出題は、センター試験の出題内容としては難しい印象を受ける。

問1 世界の地域ごとの高度別面積割合グラフの判定

④が正解である。アフリカ大陸は、南東端の古期造山帯（ドラケンスバーグ山脈）と北西端の新期造山帯（アトラス山脈）を除き、全体として安定陸塊であり、テーブル上の台地（アフリカ卓状地）を形成しているため、標高200m未満の低地の割合が少ない。他方で高峻な山脈は見られず、3000m以上の地域はごくわずかに過ぎない。

（なお、このデータは、各大陸の大地形の特徴をつかむのに有効なものである。同様のデータが東進の「入試対策：センター試験対策地理B」「地理①②」の教材に重要統計として掲載されていることを付記しておく。）

- ① 3000m以上の面積割合が高いことから、チベット高原やヒマラヤ山脈などを含むアジアを示していると判断できる。
- ② 全域の60%が200m未満と低平で、高山地帯の割合が低いことから、ヨーロッパと分かる。
- ③ アマゾン盆地などの低平な地域と、アンデス山脈の高山地帯を両方抱える南アメリカである。

問2 ルート上の気温・植生の変化と地図上のルートとの組み合わせ

正解は③である。本問のようにルート上の気候の変化を読み取る形式はセンター試験ではおなじみである（1997年本試第5問（アフリカの4ルート上の月別降水量）、2003年追試第1問（環太平洋地域の2ルート上の気温・降水量）、2005年本試第1問（ラテンアメリカの4ルート上の降水量）などがある）。本問では、気温の他に植生も記されているため判断は容易である。

ア 1～4の植生が「砂漠・ステップ」となっており、乾燥気候を示していることから、ソマリア半島からエジプトを通るルートBが該当する。

イ 1～4の気温がほぼ等しく、そのうち1～3の植生が「熱帯雨林」であることから、ギニア湾岸の同緯度帯を通過するルートAが該当する。

ウ 他の2ルートに比べ年平均気温が低い地点が多いことから、アフリカ東部で内陸の標高の高い地域を通過するルートCが該当する。

問3 農作物生産上位国の統計地図と作物名の組み合わせ

⑤が正解である。アフリカにおける3作物の性格をまとめると以下のようになる。

カカオ	熱帯のプランテーション作物。先進国向け輸出用として商業的に生産される。
小麦	半乾燥の温帯、もしくは灌漑が十分に行われる乾燥地域で自給的に栽培される穀物。
モロコシ	焼畑などで自給的に栽培される、サバナ農耕文化を代表するアフリカ原産の雑穀。

K サハラ砂漠南側のサヘルと呼ばれるサバナ～ステップの地域での生産が多いことから、モロコシが該当する。人口の多いナイジェリアでの生産が特に目立つことから、自給的な作物と判断できる。

L かつてヨーロッパ諸国に分割領有され、プランテーション農業が盛んなギニア湾岸に集中することから、カカオが該当する。生産量が世界1位・2位のコートジボアール・ガーナに注目したい。

M ナイル川による灌漑が整備されたエジプト、北アフリカの地中海沿岸諸国、温帯気候の広がる南アフリカに分布することから、小麦が該当する。

問4 南アフリカの都市についての説明文の選択

④が正解である。Sの都市はヨハネスバーグで、金鉱の発見とともに発達した鉱工業都市である。南アフリカ共和国では金・ダイヤモンドの生産が盛んであることや、アフリカで近代工業が発達している国は南アフリカ共和国を含めごくわずかであることを知っていれば正解にたどり着けよう。

① Pの都市＝チュニス（チュニジアの首都で、古代都市カルタゴの遺跡を含む）が該当する。文中の輸出品「オリーブ」が地中海式農業を示唆しており、判断の手がかりとなる。

- ② Rの都市＝モガディシオ（ソマリアの首都）が該当する。「季節風」による「アジア」との交易が行われたことからアラビア海に面した地域であることが分かる。夏は南西、冬は北東の季節風が吹く地域である。
- ③ Qの都市＝ダカール（セネガルの首都）が該当する。フランスの旧植民地であり、現在でも自動車レースであるパリ＝ダカールラリーが知られているように、フランスとのつながりは深い。「落花生、ゴム」といった輸出品からサヘル～ギニア湾岸地域と判断できる。

問5 アフリカの民族や文化についての説明文の正誤判定

- ①が正解である。スワヒリ語はバンツール語族に属し、アフリカ東岸のケニアやタンザニアなどの共通語である。
- ② 正しい。このような旧宗主国による境界線設定が、現在の各国における民族紛争の原因のひとつとなっている。
- ③ 正しい。熱帯アフリカでは、これらの作物を焼畑農業によって栽培している。なお、キャッサバはラテンアメリカ原産の根茎作物で、タピオカと呼ばれるデンプン質の粉を食用とする。ヤムイモは日本のナガイモと似たアジア原産のイモ類の一種である。
- ④ 正しい。「世界宗教」とは、ヨーロッパからの宣教師らによってもたらされたキリスト教、北アフリカのアラブ人によりもたらされたイスラム教を指す。

問6 アフリカのノーベル賞受賞者と出身国の説明文と地図上の国の位置との組み合わせ

- ③が正解。これらの人名を暗記しておく必要は全くない。文中のヒントを読み取って国名を判断していく問題である。
- X 石油の生産が行われる多民族国家で、民族紛争から内戦が起きた国である。ここからキのナイジェリアと判断できる。ナイジェリア南部のニジェール川デルタは油田地帯で、この地域に居住するキリスト教徒であるイボ人は独立を求めて1967年にビアフラ戦争を起こした。北部のイスラム教徒であるハウサ人・フラニ人、権力を握る西部のヨルバ人との対立は今も続いている。
- Y アラブ世界に位置することから、カのエジプトである。アラビア語を話しイスラム教を信仰するアラブ民族は、西アジアから北アフリカにかけて分布しており、エジプトも含まれる。
- Z 残ったのは野生生物の生息で有名なクのケニアである。ケニアのナイロビ大学初の女性教授であるワンガリ・マータイ氏は、日本語の「もったいない」を環境保護の理念にふさわしい精神を持った概念として、世界で紹介する運動によって日本人にも知られている。

第5問 現代世界の課題に関する問題 (配点17)

人口・食料・民族など各国社会の特色を背景にした課題と南北格差に関する総合的な出題であった。やや細かい判断要素も含まれ、近年のセンター地理の中では難レベルの問題であろう。とくに、問1・問3・問4・問6などの統計問題は受験生を悩ませたのではないだろうか。

問1 タイの合計特殊出生率の推移グラフの選択

②が正解となる。合計特殊出生率とは、一人の女性が一生の間に生む子どもの数の平均値である。この数値がおよそ2.1以上であれば人口規模は維持される。一般的にこの数値は、農業人口の多い発展途上国では高く、女性の社会進出が進んだ先進国では低い傾向を示す。タイ：現在でも都市人口比率は低く、農村人口の多い国であるが、一方で工業化の進展も著しい。女性も産業労働力として活用されており、出生率は大幅に低下してきている。そのため②が該当する。

中国：中国の人口増加の歴史をまとめると以下のようなになる。

1949年～57年まで (社会主義国の建設)
社会主義の完成を目指していた時期で、人口増加が国力の増強につながるとされた結果、出生率は上がり、人口は急増した。
1958年～1961年 (災害の発生と経済の停滞)
3年間の大災害の時期。経済低迷、食料生産の悪化、ソ連との関係悪化という経済的に悪い条件が重なった。全国各地で工業や農業が大きく減産し、全国的に多くの餓死者を出した。出生率が低下して死亡率は増加した。
1962年～1971年 (大躍進と文化大革命)
1967年からの文化大革命を含んだ時期であるが、強権的な政治のもとで再び多産が奨励され、経済的な混乱の中ではあるが、出生率は高まり人口が急激に増加した。
1971年～ (一人っ子政策の徹底)
1979年には一人っ子政策が提唱され、一転して人口抑制政策となる。 一人っ子であれば、様々な福利厚生が得られ、逆に子供が2人以上の場合には、これらの福利厚生は奪われ、多額の罰金を支払う必要がある。 一人っ子政策は農村部では必ずしも徹底されなかったが、それでも戸籍を持たない子供の存在や男女人口の不均衡が社会問題化している。また、今後の急激な高齢化の問題も深刻である。

したがって、中国には、1960年代に上昇し、その後急低下する③が該当する。

日本：この4カ国の中では唯一の先進国であり、出生率が低位で推移している④が該当する。

2005年の統計では1.25まで低下しており、今後のさらなる少子・高齢化の進行、人口減少が懸念される。

バングラデシュ：アジアでも特に経済成長の遅れた最貧国のひとつである。このためこの4カ国の中では出生率も極端に高くなるため、グラフ中の①が該当する。

問2 児童の就労割合を示す統計地図の凡例の判定組み合わせ

③が正解である。問1の解説で示したように農村人口割合の高い途上国ほど出生率が高いのは、そのような国では児童も重要な労働力と見られているからである。すなわち農業における家族労働力として子どもが必要であるため、多産の傾向となるのである。

したがって、中南アフリカやアジアの最貧国（バングラデシュの他にアフガニスタン・ミャンマー・カンボジアなど）では高位となる。これが凡例のBに該当する。

逆に、北アメリカやヨーロッパ、日本などでは低位となるから、凡例のCが低位と分かる。

問3 1人当たりGNI・男女別識字率の統計表と国名の組み合わせ

正解は③だが、受験生にとっては判断の難しい設問である。ややハイレベルな知識が必要となる。

識字率は教育の普及度を測る指標だが、東南アジア諸国は発展途上国の中では教育の普及が進んでいる。また、社会主義国では女性の社会的地位が比較的高く、識字率の男女格差も小さい。ベトナムはドイモイ（刷新）政策により市場経済が導入され経済成長が進んではいるものの、ベトナム戦争の後遺症は大きく、アメリカによる長年の経済制裁もあったため経済規模は未だごく小さい。以上からベトナムはMに該当する。

他の2国はベトナムに比べ識字率が低だけでなく、エジプトはイスラム教、インドはヒンドゥー教・カースト制度の慣習によって女性の社会進出は抑制されており、識字率の男女格差となって表れている。両者の区別が問題になるが、エジプトは産油国であり、石油収入だけでなく、石油を利用した化学工業などが発達、スエズ運河の通行料収入なども合わせて1人当たりGNIはやや高くなる。インドは人口が約11億人に達し、IT関連産業などの成長にもかかわらず1人あたりの数値は小さくなる。したがって、Kはエジプト、Lはインドが該当する。

問4 供給栄養量と農業就業人口割合の相関についての国別統計と3地域名の組み合わせ

正解は⑥である。各地域の大まかな傾向の理解をふまえてグラフから地域を判断する工夫された出題であった。

ア どの国も農業就業人口の割合が50%未満であることから、粗放的な大農園などでの生産が中心のラテンアメリカと分かる。

イ 農業就業人口が極端に高い上に、供給栄養量の低い国のグループが存在することから、最貧国を多く抱えるアフリカと判断できる。

ウ 残ったアジアが該当する。アフリカに比べるとアジアには最貧国が少なく栄養状態が良い。また、ラテンアメリカとの比較では、アジアのほうが農業就業人口の割合が高い国があること、アジアには先進国日本が含まれ農業就業人口割合が約4%と低く、ウの左端の点がこれを示すことが判断材料となる。

問5 多様な人種・民族の共存への取り組みについての説明文の正誤判定

正解は①である。いずれの選択肢も教科書範囲を超えた内容であり、受験生にとって正誤の判定は困難と思われる。①の明らかな誤りを見つけるしかないだろう。白豪主義以降のオーストラリアでは、一転して多くのインドシナ難民を受け入れるなど、英語圏以外からの移民が増加した。今では英語以外を第一言語とする人が、人口の15%を超えており、出身地で見るとオーストラリア以外で生まれた人が人口の4分の1を占めている。しかし、その出身地域はアジアとヨーロッパが中心で、地理的にも遠く歴史的つながりも薄いラテンアメリカからの移民は少ない。なお、多元的文化の創造を目指す多文化主義を進める中で、先住民族であるアボリジニの復権も図られつつあり、人口も20万人程度に回復しているが、社会的・経済的格差は続いている。

② 正しい。4つの公用語を持つシンガポールであるが、国歌は国語のマレー語、街中で使われるのは割合の多い中国系住民の中国語、インド系住民はタミル語、学校教育は主に英語が用いられている。

③ 正しい。なお、フランスの海外県はこの肢文にあるように、フランス語を公用語とし、通貨はユーロを用いるなど本国と同じ制度を持つ一方で、地方自治制度においては住民投票によって自らの意思を表明することもある。(ちなみに現在、海外県の地位を付与されているのは、カリブ海のグアドループおよびマルティニーク、インド洋のレユニオン、南米のギアナの4つのみであり、南太平洋のニューカレドニア、フランス領ポリネシア、ワリス=エ=フツナなどは海外県とは呼ばないので、この肢文の前半は厳密には誤りである)

④ 正しい。南アフリカ共和国では、人種隔離政策(アパルトヘイト)の廃止後も人種間の経済格差はまだ大きい。同様の選択肢は1997年本試第5問にも見られる。

問6 日本によるODA実績と対GNI比の統計の選択問題

①が正解である。日本のODA(政府開発援助)については、(1)金額は大きい但对GNI比は低い。(2)借款の割合が高く、無償援助が少ない。(3)対アジア中心である。といったポイントを押さえていた受験生は多いであろうが、それだけでは本問の選択肢は絞りき

れない。さらに、長期不況による財政赤字のもとで政府の歳出抑制策によって日本のODA総額は減少し、2001年以降は世界第2位である、という知識が必要でやや難しい。

- ② フランスである。フランスは伝統的に旧植民地であるアフリカ諸国への援助が中心である。
- ③ アメリカである。イラク・アフガニスタン復興支援が、現在の援助の中心テーマである。
- ④ イギリスである。アフリカとイラク復興支援に向けて、援助額を増やしている。

第6問 八戸市を中心とする地域調査に関する問題（配点18）

地域調査に関する問題は、地理B独自の問題として出題された2006年と異なり、2005年までと同様に地理Aとの共通問題として出題された。地形図やその地域に関する雨温図や統計資料の読み取りなど、地域調査としては例年と同様の出題内容であったが、レベル的にはやや難しい。

問1 青森県の3都市の雨温図と都市名の組み合わせ

④が正解である。地図中に示された青森市・十和田市・八戸市の月平均気温と月降水量を示したグラフ（雨温図）と、地名とを結びつける問題であり、形式としては頻出である（2004年本試第5問など）。アとイの判定でやや迷いやすい。

ア 年間を通じて他の3つに比べ気温が低い。緯度はほぼ同じであることを考えると、これは標高の高い山岳部に位置する十和田市と判断できる。

イ これは夏に多く冬に少ない降水量のパターンから、太平洋側に位置する八戸市である。

ウ 弘前市と降水（降雪）パターンが似ている。いずれも冬の北西季節風の影響で降雪が多い。この点に着眼すると、3都市のうち弘前市に最も近接する青森市であることが分かる。

問2 八戸市街の新旧地形図の読図についての説明文の正誤判定

④・⑦が正解である（順不同）。新旧地形図の比較は1999年度追試第3問、2000年本試第3問、2002年本試第5問、2003年本試第3問、2005年追試第5問など、よく出題される形式である。

① 正しい。新図では馬淵川の両岸に護岸の記号が見える。左岸（上流からみて左）には「ゴルフ場」の文字が記されている。なお、センター地理の地形図読図問題では「右岸」「左岸」の表現がよく用いられるので、右岸・左岸の定義をしっかりと理解しておくこと。

② 正しい。旧図の「蓮沼」から馬淵川河口にかけての砂れき地（砂浜）の沖合が、埋め立てにより大きく改変され、新図では工場の記号が見えることから、工業用地として開発されたことが分かる。

- ③ 正しい。「こなかの」駅の西から分岐していたJR（当時は国鉄）の引き込み線は新図では見られない。水揚げ高の減少や自動車輸送の普及によって需要が低下し、民営化後のJRによって不採算路線として整理されたものと思われる。
- ④ 誤り。旧図で畑であったのは、新井田川の右岸である。左岸は後背湿地の水田から住宅地に転換している。
- ⑤ 正しい。「大久保」付近を比較すれば、畑から住宅地への転換は明らかである。
- ⑥ 正しい。八戸港の整備にしたがって、新図では港内に防波堤が整備され、その先端に灯台の記号が多数見られる。
- ⑦ 誤り。新図にある「ポートアイランド」と対岸の間には「シーガルブリッジ」と名づけられた中央分離帯を持つ道路橋は見えるが、鉄道は存在しない。

問3 八戸の古い地形図の読図についての説明文の正誤判定

- ③が正解である。Cの「八太郎沼」は、海岸線沿いに伸びており、位置的に見て馬淵川の支流だったということは考えられない。なお、この沼は現在では埋め立てられて消滅している。
- ① 正しい。蛇行する流路の一部が切り離された、いわゆる三日月湖であり、河跡湖の一種である。
- ② 正しい。沿岸流の影響で海砂が細長く堆積した砂嘴のうち、入り江や湾を閉ざすように伸びたものを砂州という。
- ④ 正しい。「八太郎沼」の西側に見える急斜面が段丘崖である。段丘の崖下には「八太郎」の集落、その周囲には水田が広がり、段丘上は荒地や雑木林となっている。

問4 青森県の冷害発生状況を表す階級区分図の凡例の判定組み合わせ

③が正解。東北地方における冷害は、寒流の千島海流（親潮）の影響で初夏に吹く冷たい北東風＝「やませ」が作物の生育を妨げる自然災害である。したがって、その被害は太平洋側で大きく、日本海側で小さい。

したがって太平洋側に分布する凡例クが「低」、日本海側の沿岸部に分布する凡例キが「高」、残る凡例カが「中」となる。

問5 魚種別水揚げ高の統計と漁港名の組み合わせ

③が正解である。本問は、2006年本試第2問の北海道の魚介類ごとの漁獲・生産量についての設問と似ているが、それと違い魚種についてのヒントがない。すなわち、イカ類・カツオ類・サケ・マス類・タラ類のそれぞれがどのような海域で漁獲されるのかの「常識」

を問われている。地理の学習は、食卓の上でもできるわけである。なかでも暖海魚のカツオと寒海魚のタラが判断の根拠となる。

サ イワシ・カツオ類が多く水揚げされているので、もっとも南に位置する銚子港（千葉県）である。銚子沖には暖流の日本海流（黒潮）が流れており、千島海流との間で潮目を作る。

シ タラ類の水揚げが多いので、北洋漁業の基地である釧路港（北海道）と判定できる。

ス したがって残った八戸港がこれに該当する。八戸港はイカ類の水揚げが7割を占めている。イカは回遊性を持った多獲性魚で、八戸港のように冷凍・冷蔵、加工などの後背施設が整備された港での水揚げが多くなる。